学校番号	１０７

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	器楽 （副科ピアノ）	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	各専攻による教材						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

それぞれの学習進度に応じた曲を選択し、ピアノ演奏の基本的な技術を生かし、演奏表現する力を身に付けましょう。そして、ピアノ演奏を自らの専攻分野に関連付けて考える力を育みましょう。
教材、指導内容はおよその目安で、各自の個性、能力等によって異なります。

2　学習の到達目標

ピアノに関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽曲の表現内容について、曲想、音楽の構造などに加え、それら相互の関わりや文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。　【知識】 ・各自の個性・能力に応じ、自分の表現意図をもって創造的に器楽表現するために必要な技能（曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能）を身に付けて、器楽で表している。　【技能】	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように演奏するか、楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた演奏の仕方など音楽性豊かな表現について考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	様々な時代や様式の音楽について主体的に学習し、楽器の特徴を生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	独奏	・任意の楽曲の演奏 ・スケール Es-dur, c-moll	a:【知】曲想と音楽の構造、それら相互の関わりやそれらを表現するためにどのような技能が必要なのか、また文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解している。 【技】創造的に自分の表現意図を表すために、曲にふさわしい奏法、身体やペダルの使い方などの基本的な演奏技能を身に付け、器楽で表している。 b:音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように演奏するか、また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた演奏の仕方などについて考え、どのように演奏するかについて明確な表現意図をもっている。 c:様々な時代や様式といった多様な音楽について主体的に学習し、楽器の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験 振り返りシート
後期		・任意の楽曲の演奏 ・スケール A-dur, fis-moll		ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度